

## 第5章 各教育事務所からのメッセージ

本章では、県内7つの教育事務所ごとの子どもたちのよさを、児童生徒質問紙等の結果を基に、各教育事務所からのメッセージとしてまとめました。

第3章で児童生徒質問紙調査の結果と学力の階層から見える傾向を示したように、学力向上には子どもたちのよさや生活習慣等が大いに関わっていると考えられます。

本章の結果を、各地域の子どもたちのよさを一層伸ばすために御活用ください。

# 1

## 県北教育事務所からのメッセージ

### 目指す姿「目標達成のために努力し工夫できる子ども」

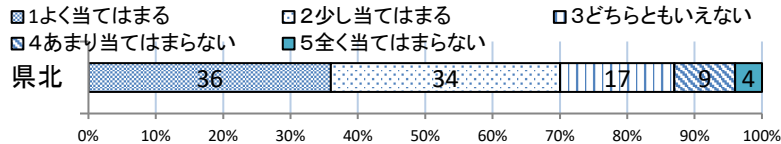
- 自ら課題を見つけ主体的に解決する子ども
- ひとと関わり心を通わせながらよりよく生活する子ども
- 進んで運動し体力向上と健康づくりに励む子ども

ふくしま学調の質問紙調査から、以下のような県北域内の子どもたちの「よさ」が見られました。



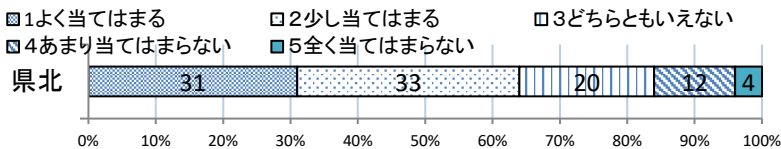
### <学習面>

#### 「勉強で大切なところは、繰り返し書くなどしておぼえる」子どもが多いです



ノート等を使って学習したことを繰り返し書いて覚える子どもが多くいます。

#### 「勉強で大切なところは、言われなくてもノートにまとめる」子どもが多いです



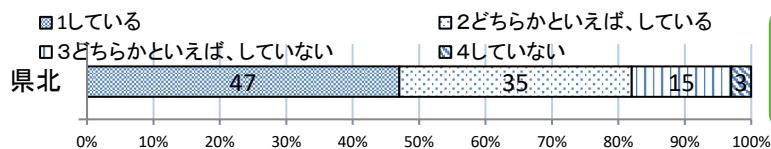
学習の中で大切なことや、自分の考えを書く習慣が付いています。

定期的にノート等をチェックし、取組のよさを認め、アドバイスを与えましょう。



### <生活面>

#### 家庭学習で「学校の授業の予習や復習をしている」子どもが多いです

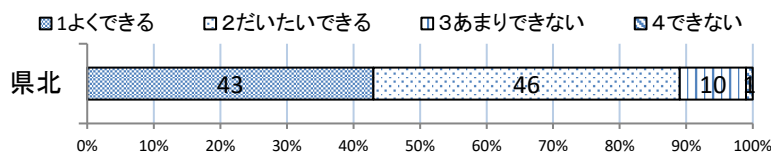


家庭学習の習慣が身に付き、授業の予習や復習をしている子どもが多く見られます。

授業と家庭学習の関連を図るために、予習してきたことを授業で生かし、復習を通して授業の振り返りをするのが大切です。



#### 相手の気持ちを考え、優しい言葉遣いができる子どもが多いです



相手を思いやり、温かな態度で接したり、優しい言葉で話したりする子どもが多いです。

- 新学習指導要領では、「言語能力の確実な育成」として、各教科等の言語活動の充実が掲げられています。学習の基盤となる言語活動を充実させるために、ノート等に自分の考えを書き、立場や根拠を明確にして話し合う学習を大切にしましょう。
- ふくしまの「家庭学習スタンダード」を活用した学校独自の取組が進められ、自ら計画を立てて予習・復習に取り組んでいる子どもが増えています。自己マネジメント力を育成するために、「学習習慣」「生活習慣」「学習時間」「学習内容」「学習方法」の5つの観点で、子どもの家庭学習状況を捉えましょう。

## 2

## 県中教育事務所からのメッセージ

## 【令和元年度の質問紙調査から見てくる児童生徒像について】

(質問紙調査の結果から、肯定的な回答が70%以上のもので、小学4・5・6年生および中学1・2年生に共通なもの)

## &lt;小学校&gt;



## &lt;中学校&gt;



質問紙調査の結果からは、基本的な生活習慣や学習習慣がしっかりと身に付いており、夢や目標に向かって努力する児童生徒の姿が見られます。このことから、各学校において好ましい人間関係を基盤として、児童生徒が日常生活を営む上で必要な行動の仕方や望ましい在り方・生き方を追求する態度を、計画的・発展的に指導している様子が伺えます。この教育活動は、各教科、道徳科、総合的な学習の時間や特別活動の他の内容と関連が深く、それらの教育効果を支え、高める基盤になっています。また、学校全体の教育機能を一層充実し、強化する役割を担っているともいえます。

今後とも、ふくしまの「授業スタンダード」にある「望ましい人間関係」「教師の姿勢」「学習規律」を大切に、子どもを中心に考えた授業づくりを進めるとともに、ふくしまの「家庭学習スタンダード」を活用し、自己マネジメント力のさらなる育成に努めていきたいと思います。

質問紙調査結果から、小学4年生から中学2年生まで全ての学年に渡って肯定的な回答が高い割合で得られた項目について、県南教育事務所域内の小中学校教育の強み（よさ）として分析しました。これを各学校の実態と照らし合わせ、一層の強みとして伸ばす参考にしてください。

## 1 「勉強していて分からないところがあったら、先生に聞きます」

全ての学年において、肯定的に回答している割合が高いです。児童生徒が分からないときの問題解決手段として望ましい選択であり、児童生徒と教師の人間関係が良好なものであることの裏付けでもあります。教師は、児童生徒一人一人の「分かるようになりたい」という願いを適切に捉え、その願いにしっかり応えられるように、先生に聞きに行ける機会を確保してあげることが「分かった」「できた」につながるものと考えて支援を続けていきたいものです。

## 2 「勉強していて大切だと思ったところは、言われなくてもノートにまとめようとしています」

児童生徒が自ら「大切だ」と判断して、ノートに書き込むという行動を起こしていることを高く評価したいです。これはひとえに、教師のノートづくりにおける地道な指導の積み重ねにより培われたものと評価したいと思います。さらに、これが「学習のまとめ・振り返り」や「復習」の際に、学習内容の充実につながるノート活用力として十分に生かされるように、子どもたちを支援し、励ましていきたいものです。

## 3 「勉強するときは、最初に計画を立ててから始めています」

多くの小・中学校において、帰りの短学活の時間や生活記録ノート（家庭学習ノート）を活用しながら、児童生徒に家庭学習の見通しをもたせる取組をしており、その成果だと思われま。併せて、「宿題をしている」「予習・復習をしている」と答えている割合も高いです。「家庭学習スタンダード」の自己マネジメントサイクルのPは、しっかり踏み出しています。一方、取り組む学習内容や学習方法に関する質問項目については、やや数値が下がります。児童生徒一人一人の「何を、どのように学習すればよいのか」といった悩み等を解消し、「家庭学習スタンダード」のR PDCAサイクルがうまく回るように支援する必要があります。

## 4 「今住んでいる県や市町村の歴史や自然に関心を持っています」

ほとんどの学年で7割を超えて肯定的に回答しており、高い割合を示しています。これは、これまで生活科、社会科や理科の授業のみならず道徳科や総合的な学習の時間の授業、学校行事などにおいても、地域の資源を生かした教材開発による質の高い教育活動が積み上げられてきた成果であり、カリキュラム・マネジメントのモデルでもあると考えます。今後も県南の教育の強みの一つとして、郷土愛や自尊心を育む基盤づくりはもとより、広い視野をもったグローバルな人材育成にもつながる大切な教育分野と考えながら、一層の充実を図ることが大切だと思います。

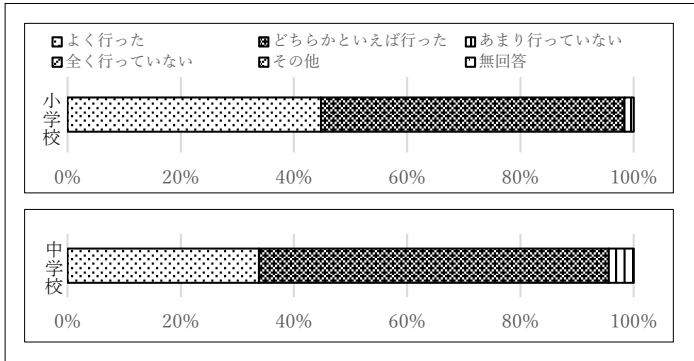


# 4

## 会津教育事務所からのメッセージ

### 1 家庭での学習方法を具体的に教えています

〔質問事項〕家庭学習の取組として、家庭での学習方法等を具体的な例を挙げながら教えましたか



学校で、児童生徒へ家庭学習の効果的な取組の方法について指導しています。家庭学習の手引きの作成や家庭学習ノートのチェックなどを通して、具体的に実施すべき内容を伝えていきます。また、ふくしまの「家庭学習スタンダード」を活用し、自らの学びを工夫・改善する取組を行っています。そのことにより、家庭学習の習慣化が図られてきています。

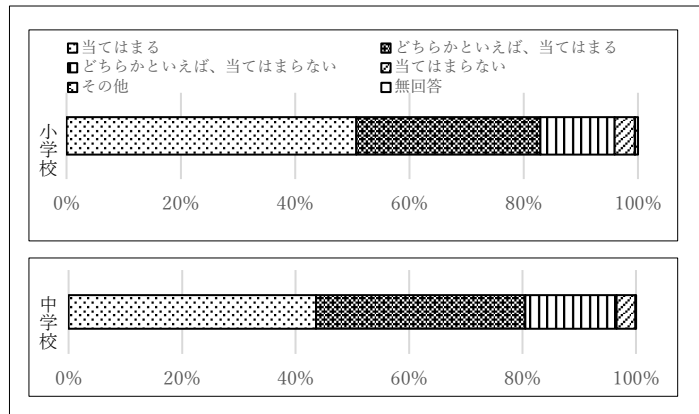
### 2 予習・復習をしています

〔質問事項〕学校の授業の予習や復習をしていますか

小・中学校ともに、予習・復習をしている割合(当てはまる・どちらかといえば当てはまる)が80%以上の高い値を示しています。

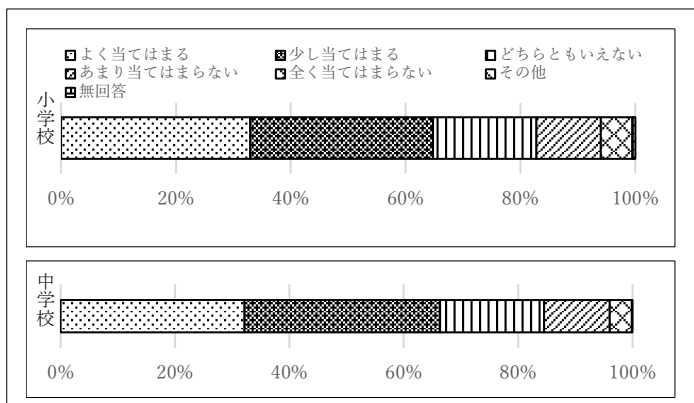
予習をすることにより、次時の学習内容に興味・関心をもち、復習することで、授業で習得した知識・技能の確実な定着を図ることができるようになりますと考えられます。

家庭学習に自主的に取り組むことにより、学習意欲が高まり、宿題から予習・復習へと学習の幅も広がっています。



### 3 学習方法が身に付いています

〔質問事項〕勉強していて大切だと思ったところは、言われなくともノートにまとめる



家庭学習の方法を指導することにより、要点やポイントを自主的にノートにまとめる割合(よく当てはまる・少し当てはまる)が高くなっています。学習方法が身に付き、主体的に学ぶ意欲が高まることで、家庭学習が充実し、授業と家庭学習の両輪で学習内容の定着が図られてくると考えられます。

### 今後のPoint

今回の結果からも、会津域内の子どもたちは学習意欲が高く、家庭学習の習慣も身に付いています。この特長を確実に学力向上につなげるには、より効果的な授業と家庭学習の接続が必要と考えます。

本事務所では、今後の指導の重点として、「ねらい」と「まとめ」の整合性を図ること、授業の振り返りの視点を示すこと、子どもたちの主体的な学習を導く板書を工夫することを掲げ、域内にアピールして参ります。また、新たにステップアップ「Aizu」により指導力向上に努めます。



# 5

## 南会津教育事務所からのメッセージ

### 南会津教育事務所 学校教育指導の重点

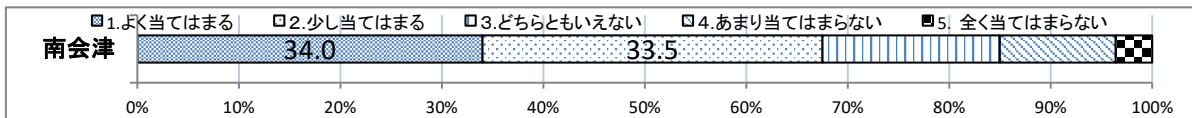
『南会津』がつむぐ南会津ならではの学校教育！

～ 郷土を愛し、夢や希望をもってともにたくましく生きる子供の育成 ～

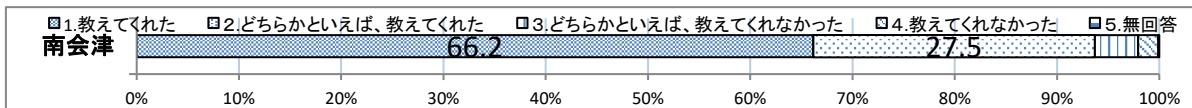
南会津地区は、豊かで美しい自然に恵まれ、郷土の伝統と文化が大切に継承されています。そのような南会津の風土を踏まえ、児童生徒一人一人が夢をかなえられる教育を目指し、学校教育と社会教育相互の連携はもとより、各学校や町村教育委員会、関係機関との連携をより意識した取組を推進する『つむぐ』教育を推進しています。そこにおいては、少人数教育による個に応じた支援や家庭や地域との様々な連携実践などに取り組んでいます。

### ○ 児童生徒と教師の望ましい人間関係が構築されています。

○ 勉強していて、わからないところがあったら、先生にきく



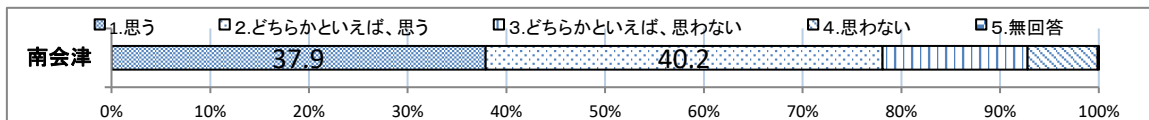
○ 先生は、授業やテストで理解していないところや、間違えたところについて、わかるまで教えてくださいましたか



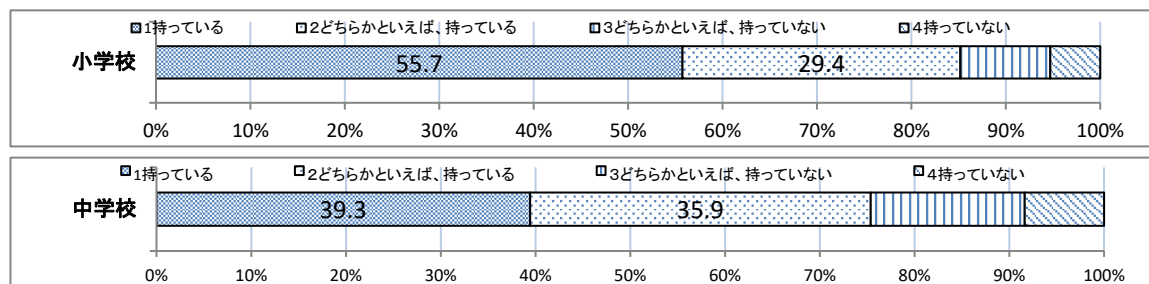
南会津の児童生徒は、授業内容や学習上の悩み等について先生に聞きやすい状況にあり、教師はわかるまで教えるという児童生徒と教師の信頼関係が構築されています。しかし、思うように学力を向上させることができていないことも現実です。手のかけすぎが児童生徒の「受け身」な姿勢につながるよう、教科や学年の枠をこえた校内研修と互見授業の奨励を通して、児童生徒の自ら学ぶ態度の育成と日々の授業の充実を図るべく日々取り組んでいます。

### ○ 地域との密接な連携から、郷土に誇りを持ち、郷土を愛する心が育っています

○ 地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか



○ 今住んでいる県や市町村の歴史や自然に関心を持っていますか



子ども歌舞伎の様子

小・中学校では、尾瀬や駒止湿原等の豊かな自然を教材とした学習や農業体験学習、子ども歌舞伎や早乙女踊り等の地域に伝わる伝統文化・芸能を題材とした学習、ESD教育等、総合的な学習の時間を核とした学びを家庭や地域の協力を得ながら工夫・充実させています。また、スポーツでも地域人材の活用を積極的に進めています。

そのため、郷土への関心や理解、愛情とともに地域の方との関わりが高い傾向にあります。今後は小・中学校だけでなく保育所、幼稚園、高校との連携もより一層深めながら、郷土に誇りを持ち、郷土に貢献する実践力を育てる地域に開かれた教育課程の編成・実践を推進していきます。

## 6

## 相双教育事務所からのメッセージ

相双地区の子どもたちが前向きに回答している割合が高い設問を挙げてみると…

<勉強する理由について>

- ◎ 勉強が好き、楽しい
- ◎ 先生や家の人にほめられたい・学校の友だちに認められたい

<ふだんの勉強のやり方について>

- ◎ 勉強でわからないところがあったら、先生にきく・勉強のやり方を変えてみる
- ◎ 勉強していて大切だと思ったところは、言われなくてもノートにまとめる

<その他>

- ◎ 難しいことでも失敗をおそれないで挑戦している
- ◎ 何事にもよくがんばる方だ

- ◆ 子どもたちの学習に対する意欲や前向きで粘り強い姿勢が感じられます。子どもたちのよさや頑張りをしっかりで見取り、賞賛し、認めてあげることが、子どもたちの学習意欲や自己肯定感の向上につながります。

<学習規律・生活習慣について>

- ◎ 授業や活動の始まる時刻を守る・学習の準備を整え、授業にのぞむ
- ◎ 脱いだ履物のかかとをそろえる・自分からあいさつ・「はい」とはっきり返事
- ◎ 人の集まる場所では静かにし、姿勢を正すことができる
- ◎ 学校の友達に認められることは大事
- ◎ 学級での生活は楽しかった・学級は落ち着いて学習する様子だった
- ◎ 学校の先生たちは自分のなやみの相談にのってくれた

- ◆ 学級において、学習規律についての意識付けがしっかりとされていること、子どもに寄り添った学級経営や生徒指導の姿勢がうかがえます。子どもたちの学びを支えるのは日々の学級経営です。相双の先生方の温かく規律ある学級づくりが、今後の学力向上につながると確信します。

<授業中の活動について>

- ◎ 一人の考えだけでなくみんなで考えを出し合って課題を解決する
- ◎ 自分の考えを理由を付けて発表したり、書いたりする
- ◎ 授業で課題を解決するとき、みんなでいろいろな考えを発表する

- ◆ 対話的な活動を取り入れた授業改善の姿勢がうかがえます。話し合い活動では目的を明確にもち、対話的な活動を通して一人一人の考えがさらに深まるような工夫につなげていきましょう。

Q. 1か月に、何冊くらいの本を読みますか

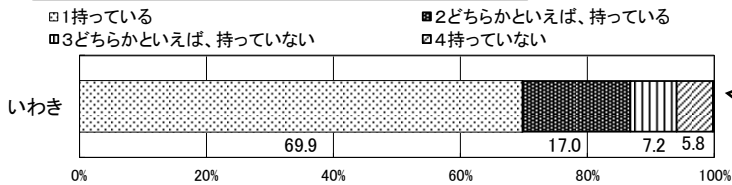
- ・ 0～2冊しか読まない子どもの割合は低く、5冊以上読む子どもの割合が高い。
- ・ 自宅にある本の冊数については県平均と比べると少ない。

- ◆ 学校図書館の機能の充実や学校での熱心な読書指導がうかがえます。今回の調査を通して読書量と国語の学力に関係性があることが分かりました。今後も本や新聞などの活字にふれる活動を通して語彙指導の充実を図っていきましょう。

## 「いわき」の子どもたち、学校はこんな強みをもっています！

## 【児童生徒質問紙の結果から】

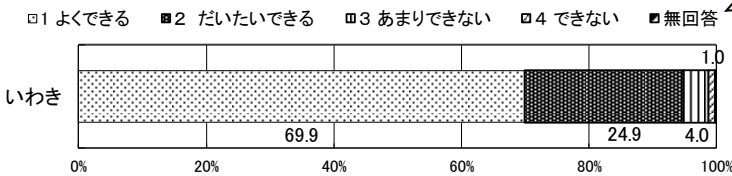
## 将来の夢や目標をもっている



いわき市ではキャリア教育に積極的に取り組んでいて、その成果が現れています。

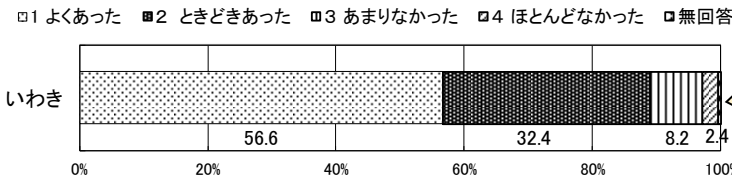
今後も、一人一人のよさを認め、自己肯定感を高める取組を進めていきましょう。

## 登下校の時刻を守ることができている



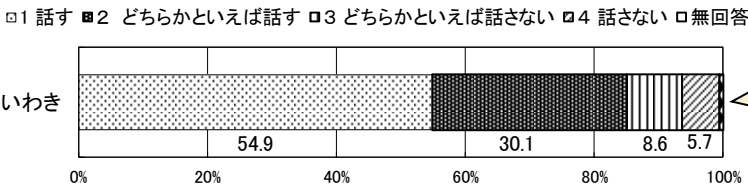
登下校の時間だけでなく、授業開始の時間もよく守られ、進んで掃除をする割合も高くなっています。規律ある態度は学習習慣の基盤となります。これからも大切にしていきたいと思います。

## グループで活動するとき、一人の考えだけでなくみんなで考えを出し合って課題を解決する



国語や算数・数学の学習で、学び合いをしながら課題を解決している様子がわかります。「授業スタンダード」を活用しながら、より主体的・対話的で深い学びの充実に向けての取組を進めましょう。

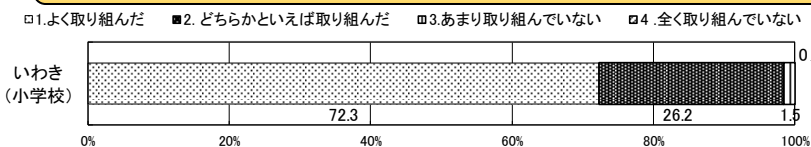
## 家の人と学校での出来事について話す



小・中とも家の人と学校での出来事を話す割合が高く、どの学年も「話す」「どちらかといえば話す」を合わせると80%を超えています。

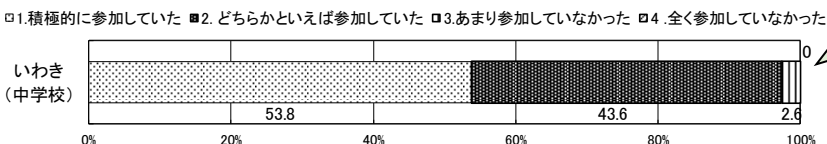
## 【学校質問紙の結果から】

## 〔小〕教職員は、授業研究に意欲を持って取り組んでいる



研修意欲が高く、校内外の研修会への参加の割合も高くなっています。

## 〔中〕教職員は、学校の意志決定に積極的に参加している



学級・学年運営の状況や課題を全教職員で共有し、組織的に取り組む割合も高くなっています。